

インフォシス、GLION ARENA KOBE と オフィシャルデジタルイノベーションおよび GX パートナーとして提携

Infosys Cobalt の力を活用してスマートで持続可能なエンターテインメント体験を可能に

神戸市、日本およびバンガロール、インド – 2025 年 9 月 2 日: [インフォシス](#) (NSE、BSE、NYSE : INFY) は、次世代デジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーとして、日本・神戸市の多目的アリーナ「[GLION ARENA KOBE](#) (ジーライオンアリーナ神戸)」を運営する、株式会社 One Bright KOBE との長期的な提携を本日発表します。この提携の一環として、インフォシスは GLION ARENA KOBE のオフィシャルデジタルイノベーションおよび GX (グリーン・トランスフォーメーション) パートナーとなります。日本において初めてとなるエンターテインメントアリーナとの戦略的提携は、先進的なデジタルイノベーションと持続可能な実践を通じて、ライブエンターテインメントとスポーツを革新するものです。ファンと訪問者の体験を向上させることで、業界の新たな基準を確立するだけでなく、新たな収益機会を開拓し、ライブイベントの新たな時代を築きます。この提携は、企業のクラウド移行を加速するためのサービス、ソリューション、プラットフォームのセットである [Infosys Cobalt](#) の力を活用しています。

GLION ARENA KOBE は、インフォシスとの協業を通じて、カーボンフットプリント (CO2 排出量) の分析を強化し、持続可能なアリーナ運営の推進、規制順守の確保、ブランド価値の向上を目指します。インフォシスは、デジタル変革における豊富な経験と、AI・データ分析・クラウド技術を活用した先進的なソリューションが評価され、今回のパートナーとして選定されました。この協業により、アリーナの訪問者データを活用したパーソナライズされた体験の提供が可能となり、すべてのステークホルダーが来場者との関係を深め、エンゲージメントを向上させるための意思決定を行えるようになります。さらに、インフォシスは Infosys cobalt の基準に基づくクラウドベースのデータプラットフォームを構築し、シームレスで透明性の高い、魅力的なデジタル体験を提供します。

株式会社 One Bright KOBE 代表取締役社長渋谷順は次のように述べています。

「インフォシスをオフィシャルデジタルイノベーションおよび GX パートナーとして迎えることを嬉しく思います。GLION ARENA KOBE は、阪神淡路大震災から 30 年の節目に神戸ウォーターフロントに建つ新たなランドマークです。当アリーナは神戸市との事業連携協定 * に伴い、地域に根差した賑わい創造拠点となれるよう取り組ん

であります。今回の提携により、インフォシスの先進的なソリューションを活用し、データの集約とクラウド技術の活用を通じて新たな収益機会を創出するとともに、ファンや訪問者にシームレスな体験を提供し、持続可能なエンターテインメントの未来を切り拓いてまいります」

インフォシスの日本代表青木秀行は次のように述べています。

「インフォシスは、知能と適応性を核にしたデジタルソリューションを構築し、人工知能を組み込んだ AI ファーストのアプローチにより、スマートな運用と自動化を実現するとともに、柔軟かつスケーラブルなクラウドファースト戦略でインフラとアプリケーション向けの高度なサービスを提供しています。GLION ARENA KOBE との提携は、これらの AI とクラウド技術を融合させたインフォシスの強みを示すものであり、日本のイノベーションと持続可能性への取り組みに完全に合致しています。本提携を通じて、インフォシスはエンターテインメント業界をはじめとするさまざまな分野の進化を加速し、新たな可能性を創出することにコミットしています。また、Infosys cobalt を活用し、GLION ARENA KOBE のカーボンフットプリント（CO2 排出量）を削減し、運営の効率化を図ることで、訪問者にとって忘れられない体験を提供することを目指します。」

神戸アリーナプロジェクトについて

神戸市が公募した新港突堤西地区（第 2 突堤）再開発事業に 2021 年優先交渉権を獲得した運営企業として、クラウドサービスを軸に行政デジタル化やスマートシティ等を手掛ける株式会社スマートバリュー（本社：大阪市中央区、取締役兼代表執行役社長 渋谷 順）と株式会社 NTT ドコモ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 前田 義晃）が手を組み、アリーナの開発企画を NTT 都市開発株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 池田 康）が担う、3 社企業コンソーシアムによる民設民営のアリーナプロジェクトです。

「この世界の心拍数を、上げていく。」を存在意義に、アリーナを基点に様々なパートナーと協創しながら、スポーツ・エンターテインメント・デジタルとの融合により新たな驚きと感動を生み出す、「次世代に誇れる神戸のランドマークプロジェクト」を推進いたします。また、アリーナ周辺にも日常的ににぎわいが生まれる地域活性化への貢献と社会課題解決型アリーナの創出を目指し、持続可能な社会の実現へ取り組んで参ります。

One Bright Kobe 株式会社について

2025 年 4 月に兵庫県神戸市の新港第二突堤エリアに開業した「GLION ARENA KOBE」を中心としたエンターテインメントエリア「TOTTEI」の運営を担っています。GLION ARENA KOBE は、最大 1 万人収容のアリーナで、B. LEAGUE「神戸ストークス」の本拠地としても利用される他、音楽ライブや企業イベントなど様々なイベントに利用されています。また、TOTTEI の海側の先端に位置する「TOTTEI PARK」は、365 日利用可能な公園として、地域の憩いの場となるよう運営されています。

インフォシスについて

インフォシスは、次世代デジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーです。30 万人を超える従業員が、人々、企業、コミュニティの潜在能力を最大限に引き出し、新たな機会を創造するために尽力しています。私たちは、56 カ国以上のクライアントがデジタル変革を推進するのを支援しています。40 年以上のグローバル企業システムの管理経験に基づき、クラウドと AI を活用したデジタル変革を導く専門知識を提供しています。私たちは、AI を中核とした基盤を提供し、アジャイルなデジタル変革を大規模に展開することでビジネスを強化し、デジタルスキル、専門知識、アイデアの移転を通じた継続的な改善を推進します。私たちは、多様な人材が活躍できる包摂的な職場環境において、適切に統治され、環境持続可能な組織として深くコミットしています。Infosys (NSE、BSE、NYSE: INFY) が、貴社の次なるステップをナビゲートするお手伝いをする方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー

本リリースに含まれる当社の将来の成長見通し、または将来の財務または営業成績に関する一部の陳述は、1995 年民間証券訴訟改革法に基づく「セーフハーバー」条項に該当する将来予測に関する陳述であり、実際の結果または成果がこれらの将来予測と著しく異なる可能性のあるリスクおよび不確実性を伴います。これらの声明に関連するリスクと不確実性には、以下のものが含まれますが、これらに限定されません：当社の事業戦略の執行に関するリスク、人材獲得競争の激化、人材の採用・定着能力、賃金上昇、従業員の再スキル化のための投資、ハイブリッド型勤務モデルの有効な実施能力、経済的不確実性および地政学的状況、ジェネレーティブ AI を含む技術的混乱と革新、複雑かつ変化する規制環境（移民規制の変更を含む）、当社の ESG ビジョン、当社の資本配分方針、市場ポジション、今後の事業運営、利益率、収益性、流動性、資本資源、当社の企業行動（買収を含む）およびサイバーセキュリティに関する事項が含まれます。将来の見通しに関する記述と実際の結果または成果が異なる原因となる重要な要因は、2024 年 3 月 31 日終了の事業年度に関する当社の米国証券取引委員会（SEC）提出書類（Form 20-F 年次報告書を含む）において詳細に説明されています。これらの提出書類は、www.sec.gov で閲覧可能です。インフォシス

（Infosys）は、適宜、追加の書面または口頭による将来見通しに関する表明を行う場合があります。これには、当社が証券取引委員会に提出した書類および株主への報告書に含まれる表明も含まれます。当社は、法律で義務付けられる場合を除き、当社または当社の代理人によって適宜行われる将来見通しに関する表明を更新する義務を負いません。

お問合せ先

インフォシスリミテッド 東京オフィス

担当 安藤 jo_ando@infosys.com